

教えて先生



ママの悩み



Q 第二子が誕生しました。五歳の娘がお姉ちゃんらしくなってきて「赤ちゃん可愛い!」「ママ、泣きよるよ!」やオムツを取ってくれたり…ととても嬉しそう。しかし!おねしょを毎晩のようにするようになり、精神的なものがきてるのはと少し心配なのです。こういった事はよくあることなのでしょうか?

A

赤ちゃんの誕生、おめでとつございます。先に生まれていた五歳のお嬢ちゃんも、かわいい赤ちゃんの誕生がうれしくて良いお姉ちゃんぶりを発揮していらつしやるようですね。

たいていのお宅では三歳前後に新しい赤ちゃんを迎えることが多いのですが、漸く一人立ちできるようなつた三歳児の場合は、これまで一人で独占してきた両親の愛情や関心を赤ちゃんに奪われてしまったようで、ねたましく思つたり、腹立たしさから急に泣き虫になつたり、すねたり、わからずやぶりを発揮してパパやママを困らせたりします。

こんな状況は殆んど例外なく起こり、赤ちゃんの夜泣きや授乳、排泄の世話などで疲れたママの神経をイライラさせ、それが上の子どもの淋しい気持ちを更に刺激することになつたりします。私は子どもが家族の中で心を開き、安心して喜怒哀楽の気持ちを素直に表せることを大切なことだと思つています。しかし、最近、保育関係者が集ると、「親の前では良い子を演じ、園に来て、そのストレスを発散する傾向が目立つ」とことが話題になります。親の期待に過剰に応えようとする為ではないかと思われまふ。

五歳になつて赤ちゃんを迎えたお姉

ちゃんは、赤ちゃんのかわいらしさと、ママの大変さが解るだけに何か役に立ちたいとがんばつていゝるんでしょね。

でも、やつぱり淋しい、赤ちゃんのように甘えてみたい。けどお姉ちゃんだからがまんしなければと、心の中で葛藤しているのだと思ひますよ。だつて生まれてまだ、たつた五年しか経つていないんですもの。その気持ちを察してあげて下さい。おねしょは、そのサインかもしれませんね。

赤ちゃんを迎えたのはつれしい、でも赤ちゃんはいいなと羨ましそつにしていたら「ちよつとママのお膝にいらつしやい」と抱きしめて頼ずり等してあげると気持ちが安定し、やつぱりママは赤ちゃんだけでなく私のことも大切に思つてくれていたんだと満たされた気持ちになり、大人を信じる気持ちが生まれ、それをベースに自立心や自信が芽生え、そこから自分をコントロールする力が育ちます。

赤ちゃんをママの為に役立つと「赤ちゃんが泣きよるよ」と教えてくれた時は「お布団の上からやさしくトントンして」とか「お姉ちゃんがあやすの上手だから喜んでるよ」と世話をしてくれる等手伝つてくれる時は「やつぱ

りお姉ちゃんね。有難う、つれしいわ。赤ちゃんは助けてあげないと何も出来ないの。お姉ちゃんも赤ちゃんの時はそつだつたのよ。」としっかりと認めてあげると自信や誇りを持つことが出来ると思ひます。

でも、あまりこれを強調し過ぎるとプレッシャーになつて「良い子しよう」とがんばり過ぎてつらくなるかもしれません。

きょうだいは、こんな葛藤の中で親の愛情を分かち合つて関係が育つていくものだと思います。

「私を認めて」という心のサインを「おねしょ」という形で表せたことは良かったと前向きに受け止めて、大変でしょうが、がんばつて下さいね。

藤岡 佐規子先生
ふじおか さきこ



1946年、京都女子専門学校保育科を卒業後、光沢寺保育園に入職。以後一貫して乳児保育に従事。現在、光沢寺第二保育園園長。北九州市保育所連盟会長、国際婦人開発基金(ユニフェム)日本国内委員会北九州地域等委員会会長、財団法人アジア女性交流研究フォーラム理事、同児童福祉施設等第三者評価委員会・同社会福祉協議会各委員等(以上、現職)。この間、全国社会福祉協議会全国保育士会会長、福岡県保育協議会副会長・同保育士会会長、福岡県立大学・西南女学院短期大学非常勤講師等を務める。

- 仲間達への定期便(西部読売開発出版部)
- 育てよう、いきいきつ子(共著、蒼丘書林)
- 子どもと環境(共著、蒼丘書林)
- 感性を育てる保育実践領域環境と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域人間関係と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域言葉と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 保育園の窓辺から…(蒼丘書林)